

神仏習合の姿が今なお残る 「幕田の星宮神社祭礼」

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司



十一月二十三日の勤労感謝の日は、鎮守社等の祭りが花盛りとなる。稻作をはじめ農作業が一段落し、その上祝祭日と重なるからである。市内幕田の鎮守社である星宮神社でも勤労感謝の日に祭りが行われる。この日は、神社の役員ばかりでなく老若男女村中の者が集まり祭りを楽しんでおり、かつての村祭りの様子を彷彿とさせる。本殿の扉は開帳され、ご神体を意味する御幣が金色燐然と輝いている。良く見るとその脇には何やら仏像が安置されている。虚空蔵菩薩であるといふ。

神社に仏像が、といえば不思議がる人も多からうが、江戸時代までは普通にあり得たことである。それが明治以降、どうした風習は無くなり、今は極めて珍しいものとなつてゐる。新しい国家体制の構築を図ろうとした明治新政府は、国民の信仰にも大きく関与した。明治元（一八六八年）神仏習合を廃し、神仏判然令（神仏分離令）を發布したのである。判然令の概要是、神社と寺院を分離してそれぞれ独立させ、神社に奉仕していた僧侶には還俗（僧籍を離れて俗人にかえること）を命じたほか、神道の神に仏具を供えることやご神体を仏像とすることも禁じたのである。

星宮神社は、典型的な神仏習合である。金星や北極星、北斗七星等夜空に輝く星を神とし、虚空蔵菩薩を本地仏として祀つたのである。幕田の星宮神社も虚空蔵菩薩を祀つていたが、修驗道では、虚空蔵求

思議がる人も多からうが、江戸時代までは普通にあり得たことである。それが明治以降、どうした風習は無くなり、今は極めて珍しいものとなつてゐる。新しい国家体制の構築を図ろうとした明治新政府は、国民の信仰にも大きく関与した。明治元（一八六八年）神仏習合を廃し、神仏判然令（神仏分離令）を發布したのである。判然令の概要是、神社と寺院を分離してそれぞれ独立させ、神社に奉仕していた僧侶には還俗（僧籍を離れて俗人にかえること）を命じたほか、神道の神に仏具を供えることやご神体を仏像とすることも禁じたのである。

星宮神社が祀られている背景には日光山の信仰が隠せない。日光山（男体山）を開山した勝道上人は、伝説によれば天子が現れ「汝は仏道を治め日本を開山せよ」とのお告げを受けたという。以来、勝道上人は、明星天子を信仰しとう。神橋のたもとに明星天子を崇めた証といふ。一方、勝道上人の教えを引き継いだ日光

明治新政府の神仏判然令により虚空蔵菩薩像を取り下げる。ご神体として金箔を施した御幣を祀つたのである。取り下げられた虚空蔵菩薩像は、しばらくの間氏子宅に保管されたが、昭和三十年頃より秋の祭礼に限り本殿に安置するようになり、普段は、神社総代の持ち回りとして大切に保管されているという。

栃木県は、全国でも最も多く星宮神社が祀られている。

寺院や仏像・仏具が壊されたのである。幕田の星宮神社では、

仏毀釈運動がおこり、各地の

寺院や仏像・仏具